

# 月報 白樺

ALPINE CLUB / WHITEBIRCH NAGANO

## 9月の活動予定

9月4日(火) 第一例会

9月18日(火) 第二例会

9月7日(金)～8日(土) 谷川岳(天神平～茂倉～蓬平～白毛門)

9月15日(土)～17日(月) 裏剣(黒部～真砂沢ロッヂ～池之平)

9月22日(土)～25日(火) 読売新道(七倉～烏帽子～赤牛～黒部)

9月30日(日) 鳥甲山

9月29日(土)～30日(日) 長山協  
「キャンプin小川山」

## 10月の活動予定

10月2日(火) 第一例会

10月16日(火) 第二例会

10月6日(土)～8日(月) 空木～南駒～越百

10月13日(土)～15日(月) 岩手山、八幡平(岩手県)

10月21日(日) 御神楽山(新潟県)

10月27日(土) 七面山(敬慎院泊/山梨県)

## 8月の活動報告

8月3日(金)～4日(土) 白馬三山

参加者:

天気:晴れ

猿倉荘前で梅海新道チームと偶然にも合流する事がで



きた。白馬尻小屋まででも暑くて汗だくでした。雪渓は人多く繋がってました。土砂崩落箇所あり、落石もたくさん転がってました。雪渓は昔より短くなったような気がしました。小雪渓は融けて水がジャージャーと流れていました。花は例年より2週間も開花が早かったらしく、終わっている花が多



かったです。それでも花の多い白馬なので楽しめました。受付してから、山頂へ。旭岳、清水岳はガスの中、杓子方面も見え隠れしてました。夕方は丸山まで登り、雲海から突き出る剣岳に見とれました。遠く槍ヶ岳、穂高連峰も見えました。源治郎尾根はどれかなあ？食事はバイキングでとても美味しかったですよ。翌日、杓子岳、鑓ヶ岳へ。振り返ってみると白馬岳と頂きが重ならずに見応えある峰々が見えました。剣岳に向かって歩いて行く感じでスケール大きいです。コマクサもかなり咲いていました。分岐から急坂を下り、大出原へ。すごいお花畑でした。チングルマ、白山小桜、白山イチゲ、車ユリ、キンポウゲが入り乱れて一面覆い尽くしてました。ささっと鑓温泉に入ってみました。乳白色の熱いお湯です。さっぱりとして良かったです。楽しめました。小日向のCOLからは長かったです。イメージでは右に行きたいのに左へ左へと回すんです。やっと猿倉荘に着いた時はホッとしました。温泉にも入れて、とても良いルートを歩くことが出来ました

8/3 長野 5:00 発 八方尾根第5 P 6:00 着 タクシー  
 猿倉 6:40 発 雪渓入口 8:25 発 村営頂上山荘 12:10  
 13:20 発 白馬岳山頂 13:50 頂上宿舎 14:55  
 8/4 頂上宿舎 6:30 発 杓子岳山頂 7:40/8:00 鐘ヶ  
 岳山頂 9:00/9:20 鐘温泉分岐 9:45 鐘温泉 11:  
 45/12:30 小日向のコル 14:25 猿倉 16:05

岩稜、雪渓、その奥には深い緑の山々が…！

ここは別世界！超感動～！！

そして、 会長とガッチリ握手。

本当に感謝感謝です。

下山し、しばらくすると源治郎尾根ルートの5名が無事帰還された。

皆さんやっぱり元気で、その笑顔から達成感が滲み出ていました。カッコイイ～！

## 8月10日(土)～8月12日(日) 夏合宿 剣岳

### ○一般ルート

参加者:

「ホワイトバーチ長野」に入会させて頂き、初めての山行が、岩と雪の殿堂・剣岳。

その険しさに、今までで1番緊張感が高まり、期待も高まる。

8/10 室堂から剣沢キャンプ場へ。

一定のスピードで列が進み、とても歩きやすい。

そして、なにより、皆さんのタフさ！元気！燃費の良さ！に驚いた。

水分・行動食を多量に摂取しているのは、私達2人だけなような気がする…。

剣沢キャンプ場に到着。

目前の剣岳の凜とした岩峰に圧倒される。

あの山頂に立てるのか？？

早々に就寝。

夜中、テントに雨・風が当たる音が聞こえる。

8/11 霧雨のような雨が降ったりやんだり。

5時に出発。剣山荘に着いた時には、すっかり雨に変わっていた。

一服剣を超えると、本格的な岩場になった。

濡れた岩で滑らないよう注意して進んでいく。

先頭の 会長から、「ここ滑るから気をつけて」、「ここに足場あるよ」、「ガバあるよ、上がれるよ」とアドバイスを頂き、難所を超えていくことができた。

8月の日曜日、特別に物見の岩で練習を開いて頂いた。この練習がなければ、気持ち的に怯んでしまっていたかもしれない。

そして、いよいよカニのタテバイに。

ここでも、会長の足の運び方を観察しながら、なんとかクリア。

そこからガレ場を進むと、剣岳山頂に到着！

と同時に、雲が一気に動き、目の前には今まで登ってきた



8/12 テントを撤収し全員でスタート。

霧の中でしたが、2組の雷鳥に遭遇。ふわふわなヒナは特に可愛い。

立山三山をまわり、雄山付近は非常に混雑していたが、無事に室堂まで到着。

初参加させて頂きましたが、会長始め皆様のおかげで、剣岳初登頂することができました。

また、いろいろと学ばせて頂くことが多く、とても有意義な楽しい3日間となりました。

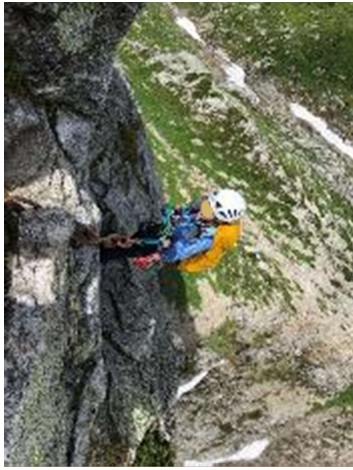
本当にありがとうございました。じゃ

### ○源治郎尾根コース

参加者;

室堂前で、剣岳への各々が思いを込めて記念撮影。いよいよ始まる源治郎。穏やかな観光風景を眺めながらキャンプ場、雷鳥坂へと向かう。久々の大きいザックが重い。途中でガスが上がり始めたが、御前小屋から剣岳を少し見ることができた。剣沢のテンバは混んでいなかったもので、4張りを近くに張ることができて良かった。偵察隊はすぐに見下に出掛けて行った。残った人達で、水確保、食糧アルファ米の作成、テントの周り水切りなどを行った。水は豊富にあり、近かったので助かった。夜は雨と強風でテントがバサバサと音を立て、眠れなかった。明日は大丈夫かと心配でした。早朝、暗いうちから出発。ヘッドランプの先だけしか見えない。剣沢雪渓でようやく明るくなり、軽アイゼン着ける。かなりの下りだ。テンバから下り続け、さらに雪渓を下り、偵察隊が昨日この道を登り返して戻ってきた事に頭が下がる。平蔵谷との出会い、大きな岩のある辺りに先行11人ほどいる。混んでいる？ハーネス装着し、草付きの急坂を登る。一瞬、戸隠の西岳を思い出した。あの時も草を掴んでいた気がする。すぐに1枚岩があり、ザイルを出して確保してもらおう。岩は濡れてぬるぬるしている。霧かと思っていたのが小雨になり、遂にザーザー降りになった。第1峰まで4回ザイルを出して確保してもらったので、滑る岩も安心だった。木の根の間をくぐったり、水の流れる岩の間を登ったり

と、私は常に四つ足状態だった気がする。雨には参った！皆、上合羽しか着ていなかったし、ザックも濡れて重くなった。景色が見えない為、自分の現在地確認も出来ずに登って、疲れがピークだった時に第1峰に到達しホッとした。ここから『ええっ〜』と言うぐらい急下降して2峰を登る。2峰は見た目より素直に登れた。苦しかったのが楽しくなってきた。雨も上がった。30M 懸垂下降地点。先行3人いたので待つ。足元の岩が浮いていると教えてもらう。下にいる人が豆粒のように見えた。物見の下のテラスで懸垂を練習しておいて良かった。先輩達はスムーズに降りて来る。さすがだ！隣の長次郎谷やハッ峰も見えている。すごい景色だ！雪渓だ！



ここからはルート不明瞭もあったし、ガラガラと崩れるような所が多かった。剣岳山頂に人影を見た時は、もうすぐかと嬉しくなった。山頂に着いた時は、感極まり泣いた！皆、雨の中を頑張った！こんな日だから山頂は空いていた。道を譲ってくれた大学生も上がってきた。健闘をたたえろと言うとおおげさか、頑張った人だけが剣の山頂にいるような気がした。山頂で濡れた物を干して乾かした。靴下からジャーと水が絞れたが、別山尾根を下って行く間に着ている物が乾くほど晴れた。



8/12 最終日、別山、雄山周回。トランスジャパン、山の日と重なったせいなのか、老若男女が雄山を登り長蛇の列でした。富士山以外にも混んでる山がありました。無事に室堂に戻り、別山尾根コース、源治郎コースお互いに喜び合いました。源治郎に登れるまでに指導して頂いた先輩方に感謝致します。物見の練習の成果だと思えます。ありがとうございました。

8/10 長野 4:30 室堂 9:10 御前小屋 12:00 テンバ 13:10  
8/11 テンバ 4:00 取り付点 5:19 第2峰 9:30 剣岳山頂  
11:20 テンバ 15:45  
8/12 テンバ 6:00 別山 7:05 雄山 9:50 一の越 11:00 室堂  
13:00

## 8月10日(土)~12日(月) 槍ヶ岳 氷河公園

参加者:

8月10日(土)

天気:晴れ

沢渡駐車場(第二・足湯のある)に駐車でき、即タクシーで上高地へ。上高地 6:15 発。横尾山荘までは登山者の往来は多かったが、槍沢に入ると静かになり、下山の方が多い。翌日宿泊予定の槍沢ロッジで、お友達の子供と挨拶をかわし、今日宿泊のヒュッテ大槍を目指す。花の時期も終わり、空は高く秋の気配。坊主の岩小屋手前の分岐を東鎌尾根までの急登を登りきるとヒュッテ大槍の赤い屋根が見える。同時に槍ヶ岳を北鎌尾根が目に見え込んでくる。評判の洋風夕食をいただいた後、夕暮れの槍・穂高連峰をながめながら、大展望を満喫。小屋はほぼ満杯でしたが、スペースは一人分確保され、スタッフさんの対応がソフトで気持ち良かった。



8月11日(日)

天気:晴れ

前日の夕食時に隣り合わせたお兄さんから、槍ヶ岳山頂の往復に2時間かかるとの情報があったので、正面に見える槍の穂先の混雑具合を確認しながら東鎌尾根を槍ヶ岳山荘へ。今日は混雑なし。途中、小槍へ行くというクライマーと会話を交わす時間もあり、マイペースで山頂へ。山頂は風なく天気は快晴。雲無く空気も澄み渡り、山並みがクッキリ。記憶に残る至福の山頂となりました。

槍の穂先をおりて、大喰・中岳を通り南岳手前の分岐から、天狗原へ尾根を急降下。天狗池では逆槍が見られました。



槍沢ロッジは団体が2組入っており、宿泊は別館。部屋の名前はついていないが、実際は通路。夕食後、ネパール人シェルのフルテンバさんとお話。名刺もいただきました。フルテンバさんは、エベレスト登頂の実績もあるそうです。ロッジの支配人が一言「プロ」とのことです。





## 8/5(日) 梅海新道 3日目 (朝日小屋～梅海山荘)

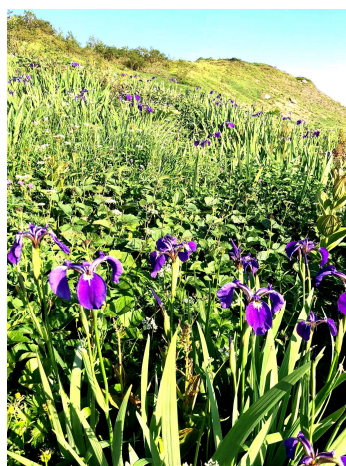
### 参加者

日中暑いので、3:00 起床し用意出来次第出発と言う事で3:32 朝日小屋発。日の出前、ガスの中ヘッドライトで照らしながら朝日岳へ。

4:30 山頂着。明るくなり始め、山頂で朝日小屋名物の笹寿司を頂く。ます寿司がとても美味しい。下り始めるとお花畑が次々現れる。ハクサンイチゲ、ハクサンコザクラ、チングルマの群生に立ち止まって見とれる。4:57 日の出。太陽がぼっかりと現れ、三人で歓声を上げた。

5:16 吹上のコル着。文字通りの強風。飛ばされそう。早々に通過。さわがに山岳会の「梅海新道を経て親不知日本海へ」の立て看だけは確認する。いよいよここから梅海新道に入る。梅の森の樹林帯を通過すると湿地帯には立派な木道が設置されていて歩きやすい。照葉の池へ。振り返って大きな長梅山を眺め、樹林帯に入り下る。ここで梅海山荘を2:00 に出てきた人に出会う。水場の情報を得る。黒岩平で汲んでいくのが良さそう。再び木道になりアヤマ平に6:35。ちょうどヒオウギアヤマがたくさん咲いていて嬉しかった。他に誰もいないので、青空の下、木道でしばし休憩。良い気持ちだ。笹寿司のクルミを食べる。こちらもおいしい。酢飯は元気になる。

黒岩平 7:55 着。沢の水が豊富に流れている。水芭蕉もきれい。逆方向から来た高校生位の男の子がここに来るまで水場の水全然なかったと教えてくれる。朝



日小屋のご主人も今年の湯水は異常で、日々水場の状態も変化していると言っておられた。ここで、4.5Lにして背負うことにする。

黒岩山 8:25 到着。黒岩山からの眺めは素晴らしくどこまでも見渡せる。これから行く犬ヶ岳への縦走路と、右肩には赤い梅海山荘が小さく見える。朝日小屋で同室だった女の人が追いつき抜かして行った。5:00 小屋発だそう。速い。

文字ノ池 9:02 着。水芭蕉が咲いているが、水が少なく、池のまわりがひび割れていて水芭蕉が可哀そう。このようなことはこの30年なかったそう。下ったり、登ったり、暑い中汗をかきながらさわがに山 10:02 着。さらに下って北俣ノ水場着 10:55。入口の所に NHK の撮影隊一行が休んでいた。ザックをデポし、5 分ほど下り水場へ。4 人が並んでいたのので後ろに着き腰を下ろす。水がチョロチョロ 1 本だけ流れている。一人が汲むのに時間がかかるので、のんびり待つ。木陰で眠くなるようだ。ようやく順番がきた。1 口飲む。冷たくて美味しい。1 リットル汲んで戻ると、私たちが終わるのを待っていたようで、NHK が撮影を始めた。主役は BS で裏剣のトレッキングの時の女性だった。

いよいよ犬ヶ岳のピークへ。12:12 着。ここからは下るだけ。12:30 梅海山荘到着！暑い中、9 時間よく歩いた。

着くと、サワガニ山岳会の女の人が部屋割りや説明をしてくれた。梅海新道を拓いた小野健さんが亡くなられ、今はサワガニ山岳会と、ベニズワイ山岳会、地元や他県の山岳会の方々 30 名程で、梅海新道協力会と言う会を立ち上げて梅海山荘と白鳥小屋の管理と登山道の整備をされ、当番を決めて小屋に通って来ているそう。すべてボランティア。お蔭様でこうして歩く事が出来、有難くて頭が下がる。今日の宿泊は 40 人位か。おそうじを終わらせて、迎えて頂いた。ビールを

6 本も分けて下さり、申し訳ないやら嬉しいやら。外のテーブルで乾杯をした。小屋のペンキを塗るボランティアの方にお礼を言うと、



「紅葉の頃も、カタクリの頃もここは素晴らしいよ」と話されて、小屋に入られて、手ぬぐいを3本持って来てくださった。今年の海のウェストン祭の記念の手ぬぐいで、カタクリが描かれていた。梅海新道を愛して守っておられる方々の何と優しく温かいことか！今回の梅海新道はこの人達とお会いできたことでもう十分！また、来よう！と三人で夢のような気分だった。

夕食も済み、明日の荷物を作りながら、水が2リットル多いと思ひ、もらって欲しいとさわがに山岳会の方に持っていくと、もらうけれど、もし、白鳥小屋まで行きそこで水が足りないと感じたら、小屋にお茶やアクエリアスが段ボールに入れて置いてあるから、遠慮しないで飲んでと言って頂いた。今年は水場が枯れたりしているの、誰にでもそう言っているそうだ。またまた感動してしまった。

梅海新道はこのような人たちに守られている。

素晴らしい山との関わりだと感じた。

8/5 朝日小屋 3:32-朝日岳 4:30/4:45-吹上のコル 5:16-アヤマ平 6:35/6:43-黒岩平 7:55-黒岩山 8:25/8:38-文子の池 9:02-サワガニ山 10:02/10:15-北叉の水場 10:55/11:30-犬ヶ岳 12:12/12:20-梅海山荘 12:30 (泊)

## 8/6(月) 梅海新道 4日目 (梅海山荘～日本海)

### 参加者

3:00 起床し、外に出ると、NHKの人達も出ていて、3:30 朝日岳に向かって出発して行った。私達も 3:35 出発。昨日のペンキのボランティアの方が「小屋から 30 分は急なので特に気をつけるように」と言いながら見送って下さった。慎重に下り、無事通過。5:00 黄連の水場着。枯れているとの事で、寄らずに通過。5:16 菊石山は気が付いたら着いていた。順調。ここからクサリ場。かなりの急登を越え、5:51 下駒ヶ岳到着。下って登ってを繰り返し、思っていたより1時間も早く、突然白鳥小屋着。6:58。あまりの速さに笑ってしまう。小屋には誰もおらず、戸を開けるとお話の通りに段ボールが何箱も積まれ、お茶やアクエリアスのペットボトルが置かれてあった。猛暑時の登山者の安全の為ここまでされる気配りと心意気に感心してしまった。

一休みして出発。どんどん下りアジサイが群生するところにシキ割の水場があった。8:06。水がチョロチョロ出ている。登り返して金時の頭 8:18。ここから急坂を下り坂田峠に 8:45 着。

あと 3 時間か。ここからは近所の里山を歩いているような気分で、小雨は降っているが樹林帯で濡れないのでカッパを着ないで歩く。尻高山 9:38。二本松峠でカッパを着る 10:20。入道山 10:33。海が見えてきていよいよ終点の梅海新道登山口 11:25 着！午前中に着くとは思わなかった。親不知観光ホテルの玄関脇にザックを置き、海へ。日本海に着～～いた～！！



親不知観光ホテルで日本海を眺めながらお風呂に入り、宿

の車で親不知まで送って頂いた。えちごトキめき鉄道で糸井川へ。新幹線で長野へ。15:18着。こんなに早く帰って来られて驚きました。

昨年は皆様にご迷惑をおかけしてしまい申し訳ありませんでした。今回は順調に歩くことが出来てホッとしました。

楽しい梅海新道の毎日、ありがとうございました。いきました。

8/3	19,287 歩	13.4 km
8/4	32,666 歩	20.6 km
8/5	33,378 歩	21.3 km
8/6	37,105 歩	23.3 km

合計 122,436 歩 78.6 km

8/6 梅海山荘 3:35-黄連の水場 5:00-菊石山 5:16-下駒ヶ岳 5:51-白鳥山 6:58/7:10-金時の頭 8:18-坂田峠 8:45/8:58-尻高山 9:38-二本松峠 10:20-入道山 10:33-梅海新道登山口 11:25-親不知観光ホテル 11:30-日本海 11:40-親不知観光ホテル(出)=親不知駅 14:09(えちごトキめき鉄道)=糸井川駅 14:20/14:46(新幹線)=長野駅 15:18

親不知観光ホテルで日本海を眺めながらお風呂に入り、宿